

実践研究

17号

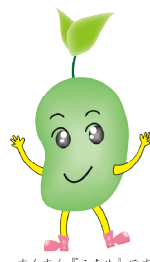
テーマ

児童生徒一人一人の今と将来の 豊かな生活を目指して

～学校と家庭、地域、関係機関をつなぐ取り組み～

- 小学部：児童が力を発揮できるよりよい連携とは
～ぼく、できるよ、こんなふうにとするとできるよ～
- 中学部：今と将来の豊かな生活を実現するために
中学部段階での授業はどうあればよいか
～生活単元学習（作業単元）における
生徒の自己肯定感や主体性を育む取り組み～
- 高等部：社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成を目指して
～進路学習の取り組み～
- 寄宿舍：学部・家庭・地域・関係機関とつながった支援のあり方
～「個別の生活指導計画」の取り組みを中心に～

学校マスコットの
「こまめ」です。
私をご案内します。



目次

1	はじめに
2	全体研究
6	小学部研究
12	中学部研究
18	高等部研究
24	寄宿舍研究
30	あとがき

はじめに



校長 三浦 祐子

本校は、この田畠地区に移転し20年を経過しました。今年度も15回目の「前沢福祉の里まつり」を盛大に行ったところです。隣接のたばしね学園・白梅の園・地域の方々との連携により年々参加者が増え、地域の皆様と共に子どもたちを育てているつながりを強く感じます。

さて、平成26年1月に、我が国も「障害者の権利に関する条約」を締結しました。今後は共生社会の更なる実現へ向け、学校在学中はもとより、就学前の支援や卒業後の就労等についても、様々な関係者と協力、連携した幅広い取り組みを充実させていかなければなりません。私たちには、目の前にいる子どもたちが何を身につけるべきか、児童生徒個々のニーズをきめ細かくくみ取り、未来へとつなげるためにその専門性をもってどのように教えていくかが問われています。自分で要求したり、自分で選んだり決めたり、自分自身でやりたいことを伝えたりする力は将来にわたって必要とされます。つまり、主体性や自己選択、自己決定を重視した指導支援が大切であると強調されてきています。これは、教育分野だけで解決しようとすることは困難であり、子どもたち、保護者、関係者と正面から向き合い、情報を共有し課題を解決していく継続的・組織的な取り組みを行わねばなりません。

そこで、本校では、平成25年度より3年間、「つなぐ」をキーワードに「児童生徒一人一人の今と将来の豊かな生活をめざして～学校と家庭、地域、関係機関をつなぐ取り組み～」と題し、児童生徒を取り巻く人々が同じ目標をもち、同じ方法で支援することが社会で生きていくための能力を培うものであると考察し、研究を重ねて参りました。

障害者権利条約や各種法律の制度改正が立て続けに行われている大きな時代の流れの中で、卒業10年後、20年後を見据えた必要な力を如何にして育てていくのか、私たちは、キャリア教育の視点で取り組み、今回の研究集録発行の運びとなりました。

この研究集録は、保護者や関係機関の皆様がより理解を深めてくださるよう、専門用語には注釈を設け、読みやすくしたつもりです。この集録も、皆様との「つなぐ」役割を果たしていただけることを願ってまとめたものではありませんが、まだまだ十分なものではありません。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、あわせて今後の本校の教育活動の充実をめざす情報共有ができますことをお願い申し上げます。

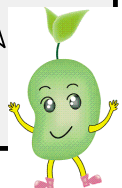
最後に、研究を進めるに当たり、多くの皆様にご指導ご助言を頂いておりますことに心よりお礼と感謝を申し上げます。

全体研究

児童生徒一人一人の今と将来の豊かな生活を目指して

学校と家庭、地域、*関係機関をつなぐ取り組み

キーワードは「つなぐ」



一 はじめに

本校では「つなぐ」をキーワードに、児童生徒へのより良い支援を考えてきました。

より良い支援は、担任一人で行えるものではありません。児童生徒に関わる多くの人が、同じ目標をもって、同じ方法で支援する必要があります。

一つ目の「つなぐ」は、児童生徒の成長に合わせた「つなぐ」です。本校には、小学部から高等部まで三つの学部があります。

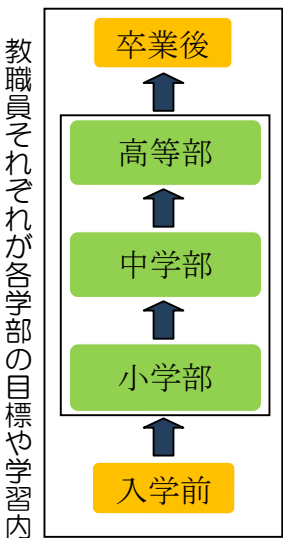


図1

容を理解することで、児童生徒の成長に合わせて支援を「つなぐ」ことができます。もちろん、入学前と卒業後との連携も大切です。二つ目は、児童生徒の周りの「つなぐ」です。(図2)

児童生徒の生活は、様々な場所・人との関わりによって成り立っています。もしも、場所や人が変わる度に支援が変わると、児童生徒はとても困ってしまいます。そこで、関わる人それぞれが情報を出し合いながら、支援を「つなぐ」ことが重要になってきます。

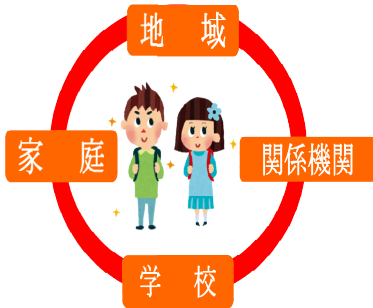


図2

二 研究にあたって

この研究の背景には、*キャリア教育の考え方があります。

キャリア教育についての理解推進や授業づくりについて、家庭、地域、関係機関と連携して取り組むことで、より良い支援につながり、児童生徒一人一人の今と将来の豊かな生活を実現できると考えています。

三 研究内容

- 1 キャリア教育の理解推進
 - ・ 他校の見学
 - ・ 情報誌の発行
 - 2 家庭、地域、関係機関との連携強化
 - ・ キャリア教育全体計画の見直し
- 供
- ・ キャリア教育や連携についての情報提供

- ・現在の連携状況の確認
- ・キャリア教育講演会の実施
- ・実践交流会の実施

四 成果と課題

1 キャリア教育の理解推進について

* キャリア教育の視点や授業づくりへのつなげ方について理解が進みました。

「キャリア教育＝新しいことに取り組みではないことを確認し、これまでの取り組みをキャリア教育の視点で見直す取り組みを継続しました。また、特定の部署だけでなく学校全体で取り組むことの確認ができました。

しかし、連携先の方々にとっては、キャリア教育という言葉はまだまだなじみが薄く、意義や内容について不明な点が多くあるようです。学校の取り組みと結び付けながら理解推進を継続する必要があります。

2 家庭、地域、関係機関との連携強化について

リーフレット、クリアファイル(資料1)、

ポスター等による情報提供により、連携強化に向けて共通理解を深めてきました。一度きりの取り組みではなく、今後も継続して情報提供をしていきます。

キャリア教育講演会や実践交流会を連携先の方々と共に実施し、これまで校内を中心に進められていた研究活動について広く知っていただくことができました。

連携についての評価は、毎年の学校評価の結果をもとに行っています。連携に関わる評価項目(情報の共有や支援の共有)についてその評価点や自由記述を確認しています。

ただし、校内研究だけで連携を推進するわけではないため、他の部署と協力しながら、校内研究としてどのような対応ができるかを検討し、取り組んでいくことが大切と考えています。

五 まとめ

三年次研究のまとめであるこの研究集録は、連携先への配付を前提に、分かりやすさに重点を置いて作成しました。

これからの校内研究は、学校だけで完結す

るのではなく、外部から様々な意見を取り入れて充実させていく必要があります。

この集録がたくさんの方に読まれ、ご意見をいただき、最終的には児童生徒の豊かな生活につながるよう私たちは努力を続けます。

(*)のついた言葉の解説です)

*関係機関

放課後等デイサービス、医療、行政等を指します。

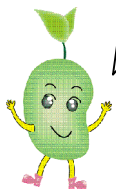
*キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立を目指す教育です。

*キャリア教育の視点

「一人一人の発達段階や実態に応じて、卒業後の生活や在学中の生活を見通した支援を行っているか」という視点。

キャリア教育については、岩手県立総合教育センター発行の「特別支援学校(知的)キャリア教育推進ガイドブック」を参考にしています。



岩手県立前沢明峰支援学校 「明るく 強く 心豊かに」

これまでも これからも

キャリア教育

キャリア教育とは
一人一人の社会的・職業的自立を目指す教育です

各学部の目標

<小学部>

- ・身の回りのことを自分でする。
- ・すすんでいろいろな活動に取り組む。
- ・明るく元気に友だちと遊ぶ。

<中学部>

- ・すすんでものごとに取り組む。
- ・社会生活に必要な基礎的知識・能力を身に付ける。
- ・健康に気をつけ、最後までやり通す。

<高等部>

- ・自ら学び、明るく豊かで活力ある生活を営む。
- ・社会生活に必要な力を身に付け、自らの進路を考える。
- ・自ら健康や安全を考えて生活する。

家庭・地域・関係機関の皆様 ご協力をお願いします

- ・あいさつを交わしましょう
- ・手伝いをしましょう
- ・マナーや礼儀を身に付けましょう
- ・地域行事・PTA行事に参加しましょう
- ・地域の自然や文化とふれあいましょう

キャリア教育推進のために・・・

家庭との連携



進路学習会

地域との連携



買い物学習

関係機関との連携



助産師による性教育



美化活動



前沢 福祉の里まつり



就業体験実習

学校の取り組み



小学部 着替えの学習



中学部 委員会活動



高等部 作業学習

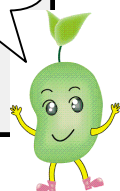


岩手県立前沢明峰支援学校
 〒029-4208
 岩手県奥州市前沢区字田島18番地1
 TEL (0197)56-6707 FAX (0197)56-5967
<http://www2.iwate-ed.jp/mae-y/>

児童が力を発揮できるよりよい連携とは

くぼく、できぬよ、じとならひじするよ、できぬよ、く

キーワード
は「連携」



一 はじめに

平成二十二年からの三年間、排泄、衛生（歯磨き、手洗い）、着脱の三項目について研究を進めてきました。その結果、支援に必要な教材や手順などの手立てを学部内で共有・活用することができるようになりました。

そこで、二十五年からは学校だけでなく、家庭や*放課後等デイサービスでも支援の共有ができるように、よりよい連携の仕方について探っていくようになりました。

二 研究にあたって

学校で児童の課題に挑戦・検証し、連携先へ支援の成功例を伝え働きかけていくことはとても大切なことです。同じ支援の仕方をするのが、児童が力を発揮できるきっかけ

になるのなら、やらない手はありません。

でも、今までは連携先によっては、連携がうまくいかない場合もありました。工夫をすれば連携がうまくいき、それによって、児童が力を発揮できるようになると信じて私たちはこの研究に取り組み始めました。

三 研究内容

- 1 連携記録シート（資料1）の記入
- 2 *小グループでの情報交換
- 3 目標を連携先と立てる
- 4 *事例研究
- 5 通信（資料2）の発行
- 6 放課後等デイサービスの見学
- 7 連携先との情報交換の工夫

四 成果と課題

- 1 連携記録シートの記入

児童全員分の連携記録シートを作成し2ヶ月毎に支援の仕方や連携の仕方について評価し見直しました。2ヶ月ではあまり変化のない児童もいましたが、記録することで連携内容を意識でき、整理して考えるきっかけにもなりました。

2 小グループでの情報交換

連携記録シートをもとに小グループで見交換を行いました。連携がうまくいった事例や難しい事例を紹介し合うなかで、連携しやすいポイントが見えてきました。分かりやすい、結果が見やすい、負担がかからないものは連携しやすい事が分かりました。また、支援の手立てについてもグループ内で考えることができました。

3 目標を連携先と立てる

個別面談等を利用して目標を連携先と一緒に考えました。これにより連携先の考えを

目標に反映させることができ、協力してもら
える事例が増えました。

4 事例研究

事例研究をすることでそれぞれが担当し
ている児童の事例について紹介し合い、支援
のヒントを得ることができました。全教職員
で行う全体研究会では取り組んできた支援
の方法について他学部から意見をもらいま
した。

5 通信の発行

グループ内の成功例を中心に連携先の放
課後等デイサービスや各家庭に通信の形で
お知らせしました。通信については配付先か
らアンケート(資料3)をとりましたが、「他
の子の成長の様子や連携の様子を知ること
ができるのはとても良い。子育ての刺激にな
る。」という感想もいただきました。

6 放課後等デイサービスの見学(資料4)

夏休みに放課後等デイサービスの見学を
行いました。学校以外での児童の様子が見学
できたことは、こんなことが連携できるか考
えるきっかけになりました。また、連携に関
することでもそれ以外のことも情報交換をす

ることができ、参加した教職員からは良かつ
た、ぜひ行ってみるべきと感想が出されまし
た。

7 連携先との情報交換の工夫

登下校時や面談の時の話し合い、連絡帳で
の情報交換を中心に行っています。○△等の
記号で目標が達成できたかを記入したり、コ
メントや写真のやり取りなど、連携先にあわ
せた方法で工夫を進めました。

8 課題

家庭によっては小さいお子さんがいたり、
ご両親が忙しくて連携したいと思ってい
てもできない場合があります。また、放課後
等デイサービスでも環境や人員配置の關係
で連携が難しいと言われることもありまし
た。連携先はいろいろあり、その事情も様々
なので連携に秘策は無いのかもしれない。
学校で確実にできるようなことから連携先
に返していくと協力が得やすいようなので
引き続き学校での支援を継続していきます。

五 まとめ

連携に秘策は無い、だからこそ、学校が家

庭や関係機関と連携するということを意識
することが必要です。そこから、一緒に考え
ようとか、分かりやすく伝えようという行動
が生まれます。相手を知り、両者が共にでき
ることを見つけ実践していくこと、協力が得
られない場合もあきらめず、児童がどうした
らできるようになるのかを提案していくこ
と、その中で、児童が少しでも成長すれば、
それが連携の難しいケースのスタート地点
になると信じて実践を積み重ねていきたく
と思います。

*放課後等デイサービス…: 学校に迎え
に来て、夕方、保護者の方が迎
えに行くまで預かってくれる
施設。施設によっては自宅まで
の送迎や登校時の学校への送
りのサービスもある。

*小グループ…: 児童の目標から関連す
る項目を集めて4グループを
作った。

A 挨拶 B コミュニケーション
C 体 D トイレ・着替え

*事例研究…: ある児童について目標や
支援の方法、連携の様子、児童
の様子、成果と課題について話
し合います。

小学部 年 「願う姿」連携記録シート

記入者名 △△△△

No	名前	願う姿	支援の方法	連携先	連携の仕方	成果・課題
1 6.7 月	○○○○	トイレで排泄ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄表を作り排泄のたいの時間をチェックしちょうど良い時間にトイレに誘う。 ・布パンツにする。 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・布パンツの用意 ・汚れ物の洗濯 ・トイレ用バックの用意 	<p>連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ用のバックは忘れてくることもあるが、パンツとズボンの用意は協力的で足りないことのないくらいストックがある。 ・家でも時間を決めて排尿にさそっており成功している。 ・家庭訪問時はオムツで過ごしていた。家でも布パンツで過ごして欲しい。 <p>願う姿について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時にトイレに行くと排尿できるようになった。 ・定時以外では排尿を教えた時には失敗している。トイレに行くまで排尿を我慢することが課題か。
1-2 8. 9. 月		継続	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時、給食前、給食後、下校前に定時排泄を促す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めてトイレに行く ・連絡帳に家のトイレの様子を記入する。 	<p>連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家でのトイレについて定時排泄がうまくいっているかどうか連絡帳に○×で記入してもらっている。 <p>願う姿について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時以外でも排尿を伝えるとき、ぎりぎりではなく余裕を持って教えてくれるようになってきた。

2	◎◎◎◎	トイレで排泄ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄表を作り排泄のだいたいの時間をチェックしちょうど良い時間にトイレに誘う。 ・様子を観察しサインを見逃さずにトイレに連れて行く。 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・布パンツの用意 ・汚れ物の洗濯 ・トイレ用バックの用意 ・時間を決めてトイレに行く 	<p>連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では布パンツにパットで過ごして欲しいとの願いを受け学校ではパットで過ごした。 ・家では自分からトイレに行くことがあるがドアの前で排尿してしまうことが度々あった。 ・風呂の前にはトイレを誘っている。 ・家ではトイレでは数を数えて座らせているが嫌がることが多い。
2 - 2 8 . 9. 月			<ul style="list-style-type: none"> ・午前中布パンツにして排尿時間を正確に把握する。 ・夏休み明けにトイレに座ることを嫌がるようになってきた。利用している放課後等テイスービスの様子を聞くと便座を使用し喜んで便座を持って行くようなので、学校でも乳幼児用便座を使ってみる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・脱ぎやすいズボンの用意。 ・連絡帳に家のトイレの様子を記入する。 	<p>連携について</p> <p>願う姿について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でトイレで排尿したのは2回。ズボンを下げて座る前に排尿が2回。 ・座らせると、嫌々と首を振る。 ・排尿間隔は4月より長くなってきた。

Renkei

2015.7.24
小学部研究通信
第7号

今年度の連携通信は、「挨拶グループ」からスタートします！挨拶は、いろいろな方が目にする場面が多いと思いますので、頑張っている姿を見かけた際には、「立派な挨拶だね！」などの声掛け等で褒めて頂けるとうれしいです。ここでは、それぞれの挨拶の仕方や頑張るポイントがありますので、ご紹介します。



◎さん(◎年)

『挨拶のときにお辞儀や声を出して挨拶をする。』
挨拶の時、「あ〜」と声を出せるように頑張っています。



●さん(●年)

『立ち止まり、落ち着いて挨拶をする。』
いつも、登校時は、人の多さに戸惑い、慌てて教室に行ってしまうので、まずは、学級の先生の前で立ち止まり、落ち着いて挨拶できるように頑張ります。
(ポイント!) 目線を合わせてもらえるとうれしいです!



△さん(△年)

『目を合わせて、手をタッチしての挨拶をする』
玄関ホールを風のように通り抜け、教室へと行ってしまうので、立ち止まり、挨拶できるように頑張ります。
(ポイント!) 目が合ったら、手を出してもらえるとタッチしやすくなります!



□さん(□年)

『お辞儀の後に「あ〜」と声を出して挨拶する。』
朝は、早めの登校です。にこにこの笑顔で来ますので、タイミングが合いましたら、挨拶をよろしくお願いします!
(ポイント!) 目線を合わせると、お辞儀をしますので、ゆっくり見守って頂けたらと思います。

○さん(○年)

『自分から挨拶をする』
日中に、周りの先生や友達に「こんにちは」を言えるようになってきています。朝の挨拶も頑張りますので、見守りをお願いします!



挨拶を通じ、多くの方と触れ合うことでコミュニケーションを取ってもらえたら、子どもたちの力になると思いますので、応援よろしくをお願いします!

Renkei

2015.3.12
小学部研究通信
第5号

卒業生の保護者のみなさん、お子さんのご卒業おめでとうございます。前沢明峰支援学校小学部で過ごした6年間、いろいろなことがあったと思います。私たち職員は保護者のみなさんの期待に添えたいでしょうか。そして、在校生の保護者のみなさん、学校はお子さんの成長を共に喜びあえる場でありたいと願っています。

さて、今年度最後の通信は、先日ご協力いただいたアンケートの結果をお知らせします。アンケートは小学部の保護者のみなさん35名と関係施設8団体にお願いました。お返事をいただいたのは保護者のみなさんから22通（回収率63%）、関係施設から4通（回収率50%）でした。

アンケート結果

1 あなたのことを教えてください。

・父（2） ・母（20） ・祖父母（0） ・その他（4）

2 「小学部通信 Renkei」を知っていますか。

・いつも読んでいる（21） ・見たことがある（3） ・知らない（2）

3 今までの「小学部通信 Renkei」の中で印象に残っているテーマは。

・小学部の研究について（3）
・挨拶、お話グループ、小野寺遥大君のコミュニケーションを広げる取り組みについて（17）
・日常生活の指導グループのB君のトイレトレーニングについて（12）
・手伝いお金勉強グループの一年間の連携の内容について（4）

4 「小学部通信 Renkei」を読んで学校との連携を考えるきっかけになりましたか。

・連携について考えて連携しようと思った（20）
・連携について考えたが連携するのは難しいと思った（3）
・連携について考えなかった（0）

5 学校との連携であなたができると思うことを教えてください。（複数回答可）

・挨拶（21） ・会話（14） ・サイン（10） ・着替え（10） ・食事（10）
・トイレトレーニング（9） ・手洗い（4） ・洗濯（1） ・手伝い（6）
・勉強（2） ・お小遣い（1） ・体力作り（4） ・その他（1）

6 「小学部通信 Renkei」についてのご意見、ご感想、今後の希望などをお書きください。

・うちの子もサインを取り入れて実行中なので子どものためになることは、ドンドン取り入れて成長させていきたいと思っていますので「Renkei」これからも楽しみにしております。
・他の子の成長の様子や連携の様子を知れるのはとても良いことだと思う。子育ての刺激になり家でもできることを頑張ろうと思う。
・子どもの気持ちの波があり、安定させることが精一杯で親も「取り組み」ということまでいっていないと思います。やらねばと思いつつ…。
・家庭、学校、施設の連携が大切ですので今後も情報をよろしくお願いします。

アンケートの結果から連携について関心を持っている方が多いことが分かりました。連携の内容としては挨拶、会話、サインという項目を挙げた方が多かったです。このアンケート結果を次年度に生かしていこうと思います。ご協力ありがとうございました。

（文中の写真は卒業おめでとう会の写真です。）



夏季休業中放課後等デイサービスの見学についてのアンケート結果

1 放課後等デイサービス事業所名

2 研究のグループ名（○をつけてください）

挨拶グループ コミュニケーショングループ⑦ 体グループ② トイレ着替えグループ⑩

3 この見学で連携についての話しができましたか

できた（11）

できなかった（8）

4 この見学で連携と関連することについて見る事ができましたか

できた（10）

できなかった（8）

5 この見学は研究テーマと関連した成果がありましたか

あった（13）

なかった（6）

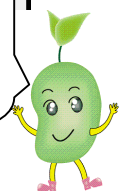
まとめ

- ・連携についての話し合いや見学は見学者の半数を若干上回るくらいだが、放課後等デイサービス事業所の見学は、児童の放課後の生活の場を見学でき、どのように過ごしているか知る事ができるので成果があった。
- ・場所や活動の様子を見る事でどんなことが連携できるのかを考えるきっかけになった。
- ・学校の取り組みの様子を伝えたり情報交換ができた。

今と将来の豊かな生活を実現するために中学部段階での授業はどうか

〈*生活単元学習（作業単元）における生徒の*自己肯定感や*主体性を育む取り組み〉

キーワードは
「自己肯定感」
「主体性」



一 はじめに

中学部では、平成二十四年度までの研究成果から、中学部段階の授業の中で大切にすべきこととして、「自己肯定感を高めながら、小学部で身に付けた『できること』をさらに増やして『したいこと』主体的に活動すること」で、生徒自身ができるための手がかりを得ること」という二点を確認することができました。そこで、平成二十五年度からは、生活単元学習（作業単元）において、今と将来の豊かな生活を実現するための支援として、自己肯定感や主体性を育む取り組みについて探ることにしました。

二 研究にあたって

これまでの研究から、中学部段階の授業の中で、自己肯定感や主体性を育む授業づくり

が将来の様々なことに挑戦する姿、挫折を乗り越えていく力につながっていくと考え、この研究に取り組むことにしました。

三 研究内容

- 1 単元設定・目標・評価について
 - ・ 学部共通の単元設定
 - ・ 作業班ごとに販売を目的とした目標設定
 - ・ 自分の目標を意識して活動できるための支援
 - ・ 認め合い達成感を感じられる評価
- 2 作業内容・支援方法について
 - ・ 自分の力を最大限に発揮できる支援
 - ・ 十分な作業量の確保
 - ・ 自分の力でやり遂げることでできる支援
 - ・ 作業班の構成や場所等の検討

- ・ 新製品・作業班の「コラボ製品」の検討
- 3 作業以外の活動について
- ・ オリエンテーション・まとめの会の工夫
- ・ 販売活動の充実
- ・ お互いの作業を見合う機会の設定
- ・ 売の上げを使って楽しむ会の実施

四 成果と課題

- 1 単元設定・目標・評価について
 - ・ 中学部全体として「中学部ハッピーショッ
 - ・ プを成功させよう」という販売活動を目的とする単元設定をしました。活動に対する目的意識がはっきりし、生徒の興味・関心・意欲

につながりました。

作業班ごとの目標については、「たくさん作って売ろう」「丁寧に仕事をしよう」など生徒たちから出た言葉で、販売を目的とした目標を立てることができました。このことが生徒たちの意欲や主体性につながると共に、販売というゴールに向けてしっかりと見通しをもつことができました。

生徒個々に応じた目標を立てたことについては、頑張った成果が一目で分かる評価をすることで、それぞれが目標を意識して作業に取り組むことができました。また、どの実態の生徒にも対応することができました。今後も生徒個々に応じた具体的な目標を立てるために、作業量に見通しをもつことのできる支援を検討していきたいと思えます。

作業終わりのまとめの活動については、個々の評価が全員にはつきり伝わるような発表の仕方を更に検討していきたいと思えます。

2 作業内容・支援について

十分な作業量の確保、実態にあった補助具の使用、同じ作業に継続して取り組むことな

どにより、一人で行えることが増え、自信をもって意欲的に作業する姿が見られるようになりました。

一人一人の作業場所やスペース、報告場所などの配置については、生徒の動線を考えながら今後も工夫していきます。

3 作業以外の活動について

作業期間ごとに販売活動を設定して取り組みました。お客さんに直接販売する機会を設けたことで、自分たちが頑張った製品が売れることの喜びを直に感じることができ、達成感や自己肯定感を感じることができました。

販売活動については、全員で販売活動をする機会を増やしていきたいと考えます。作業期間に合わせた販売活動の設定を今後も検討していきたいと思えます。

4 保護者や関係機関との連携の工夫

保護者やたばしね学園との連携の工夫として行った写真入りの作業ノートや校内実習中の作業通信は、作業の様子をより具体的にイメージできるように伝えることができ、保護者からも具体的なコメントを受け取る

ことができました。その保護者のコメントが生徒の励みになり、作業へのやる気につながりました。

五 まとめ

生徒たちは、中学部に入學して初めて作業という学習に取り組みます。働く学習の最初の段階として、働くことが必要であることを理解し、前向きに働くことという意欲や姿勢を学ぶ大切な時期と言えます。販売するという目的意識をもって繰り返し作業に取り組むことで将来の働く大人になるための力を育てていきたいと考えます。本研究を通して、自己肯定感や主体性を育むための支援の大切さを確認することができました。今後も、作業活動や販売活動で、保護者や地域の方々と連携しながら、より良い支援のあり方を検討し実践していきたいと考えます。

*生活単元学習

自立的な生活に必要な事柄の実際的・総合的な学習

*自己肯定感

自分のできるという自信

*主体性

自分から責任をもって取り組む態度

H27年度中学部生活単元学習（作業単元）の概要

1 作業班の編制と主な作業内容



クッキー班（9人）

クッキー作りを「生地作り」「形作り」「計量・焼き」の3つのグループに分かれて作業を進めている。



クラフト班（10人）

革製品の製作を「型取り・切断」「磨き」「組み立て」「菱目打ち」「縫い」など、作業工程を分担して取り組んでいる。



手芸班（9人）

ビーズ班（ペットボトルビーズを利用した製品作り）、アイニット班（アイニットを使用した製品作り）の2つの班に分かれて活動している。



紙工班（8人）

手すき和紙を利用した製品を「すき班」「はり班」の2つのグループに分かれて製作している。

2 作業単元期間と販売活動

	期 間	時 間	販売活動
第1回	6月 8日（月） ～ 6月26日（金）	3, 4校時 （10:30～12:00）	6月24日（水）たばしね学園販売 6月25日（木）校内販売
第2回	9月28日（月） ～10月 9日（金）	3, 4校時 （10:30～12:00）	10月24日（土）前沢文化と産業まつり 10月31日（土）福祉の里まつり
第3回	11月 6日（金） ～11月13日（金）	2, 3, 4校時 （ 9:50～12:00）	12月1～3日（月～水）校内販売
校内実習	11月16日（月） ～11月27日（金）	終日 （ 9:00～14:25）	
第4回	2月 1日（月） ～ 2月12日（金）	2, 3, 4校時 （ 9:50～12:00）	2月12日（金）産直来夢くん

※クッキー班：作業期間中に随時校内販売を行う。

○授業の様子

(支援例：自分の力を最大限に発揮できる支援、自分の力でやり遂げることでできる支援)



【クッキー班】

クッキー一つ分の生地をきちんと正確に量ることができる支援。



【クラフト班】

正確に2本の針を交互に左右から通し、綺麗なステッチを入れることができる支援。



【紙工班】

パルプを作るために、ミキサーに1人で適量の水を入れることができる支援。



【手芸班】

ビーズの大きさが同じになるようにペットボトルを一定の長さに切ることができる支援。

○まとめの会の様子 (校内実習反省会)



頑張ったことや完成製品数などを発表しました。



お互いの頑張りをビデオで見ました。

○販売活動（中学部ハッピーショップ）の様子



校内販売（6月25日）



たばしね学園販売（6月24日）



前沢文化と産業まつり（10月24日）



前沢福祉の里まつり（10月31日）



校内販売（12月1・2・3日）



○アンケートはがき（官製はがき）

中学部ハッピーショップ製品について

本日は、中学部ハッピーショップの製品をお買い上げ頂きまして、ありがとうございました。今後とも、より良い製品作りをしたいと思っておりますので、是非アンケートにご協力をお願い致します。

○お買い上げ頂いた製品について、ご記入をお願いします。

購入された製品名【】

◇製品を購入していかがでしたか？

（あてはまるものを○で囲んで下さい）

・大変満足 ・やや満足 ・ふつう ・やや悪い ・悪い

◇製品について気になることがあれば、お書き下さい

（）

購入された製品名【】

◇製品を購入していかがでしたか？

（あてはまるものを○で囲んで下さい）

・大変満足 ・やや満足 ・ふつう ・やや悪い ・悪い

◇製品について気になることがあれば、お書き下さい

（）

※よろしければご記入をお願いします。

◇お住まい（市・町・村）

◇年齢 60代以上・50代・40代・30代・20代以下

○週末の作業ノート（クッキー班）

1 今週のクッキー班の取り組み 10月5日(月)～10月9日(金)



クッキーの形づくりでは、形の美しさ、作業のスピード、報告のしかた など、どれをとっても本当に立派でした!! それに加えてこの笑顔♡ 本当に楽しんでクッキーをつくっていました!!

作業前のひととき…
身支度が早く終わった人たちで掃除用の紙ちぎりをしています。
クッキー班の仕事、全てに意欲的な [] さん。とても集中していますよ!

担当[]



<連絡事項>

2週間の作業、クッキー班のみなさんとても頑張りました! それぞれの作業に真剣に取り組む姿や、前の日の反省点を気をつけようとする姿が見られたり、一人一人目標の達成にむけて努力しました!!
次回は里まつりでの販売です! みんなで力を合わせて作ったクッキー、張り切って売りましょね!

2 お家・学園から

社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成を目指して

～進路学習の取り組み～



キーワード
は「卒業後の
豊かな生活」

一 はじめに

高等部の研究テーマにある、社会生活能力とは、自分の生活する環境やもっている力に
応じて、身の回りのことが自分でできたり快
適な生活を送ったりする上で必要な力です。
自己選択・自己決定力とは、生活上のこと(好
きなお菓子を選んで買う等)はもちろん、自
分の進路や働くこと、職業についての理解を
深め、積極的に体験したり考えたりして、自
分で選択し決定していく力です。私たち教職
員は、生徒たちがこの力を身に付けて社会に
出て行ってほしいという願いをもちながら、
日々接しています。

そこで、進路学習をその中核となる授業と
考え、学部研究で取り上げることになりました。
進路学習について

・学習内容ー進路や働くことに関わる内
容、家庭的な内容・実生
活に役立つ国語的・数学的

な内容・性教育

・学習形態ー学年ごとの発達段階別の三

グループ(図1)

・二十五年次から教育課程の変更を見据
えた試行を行い、二十七年次から

*「学校設定教科」となりました。

二 研究にあたって

進路学習において、学年ごとの横のつなが
りと指導グループごとの縦のつながりを確
認し、系統立てた授業づくりをしていくこと
により、生徒の社会生活能力の確立と自己選
択・自己決定力の育成につながるのではない
かと考えました。

三 研究内容

- 1 進路学習の目標・指導内容の授業をと
おした確認(支援略案、実施状況と反省
シート)(資料1)
- 2 研究授業の実施

- 3 学年ごとの横のつながり、指導グルー
プごとの縦のつながりの確認と指導内容
表の作成
- 4 社会生活能力と自己選択・自己決定力
の捉え方の確認
- 5 家庭や関係機関との連携についての整
理と共通理解

四 成果と課題

- 1 進路学習の目標・指導内容の授業をと
おした確認について
進路学習の目標は、二年間の実践を基に各
グループで見直しを行いました。その後全体
で、学年・グループごとの系統立てた目標と
いう視点で確認しました。
指導内容については、一年目は支援略案と
実施状況と反省シート、二年目からは実施状
況と反省シートで実践を重ねました。二十五
年度から学習内容や授業時数を増やした形
でのスタートだったため、授業の組み立てや

指導内容の精選等、課題も多くありました。しかし、授業実践を積み重ねることにより、系統立てた指導計画や指導内容が組み立てられるようになってきました。

2 研究授業の実施

三年間で各グループの授業を公開し、外部講師の助言をいただくと同時に、他学部からの意見をたくさん得て、実践に生かすことができました。

3 学年ごとの横のつながり、指導グループごとの縦のつながりの確認と指導内容表の作成について

学年ごと横のつながりは、学年会等で確認することができましたが、指導グループごとの縦のつながりについては、情報交換の不足が課題として上げられました。

指導内容表の作成については、各グループの様式と指導項目を共通にして、グループごとに検討を重ねました。その際、二年間の実施状況と反省シートを基に、作成することができました。(資料2) 今後は、この指導内容表を基に、年間指導計画を作成していきます。

4 社会生活能力と自己選択・自己決定力の捉え方の確認について

グループごとに、社会生活能力と自己選択・自己決定力とは具体的にどういう力なのかということ、それぞれ対象の生徒たちをイメージしながら確認し合うことができました。また、全体研究会の研究協議の場でも、小学部・中学部段階でのそれぞれの力について意見交換をすることができました。

5 家庭や関係機関との連携についての整理と共通理解について

家庭・関係機関と行っている連携について一覧表(資料3)にまとめることにより、今まで行っているものの確認と、共通理解ができました。

学校での様子や学習内容を、通信(資料4)や連絡帳等で家庭に伝えたり、長期休業等の課題にすることで定着を図りたいと考えますが、取り組みがなかなか難しいようです。継続した働きかけと、取り組みやすい方法の工夫を考えていきます。

関係機関との関わりの中で、生徒たちの実態や成長が見えてくるのが多くあります。

た。事前の学習に組み入れたり、事後の学習で補ったり深めたりしながら、力を伸ばしていきたいと考えます。

五 まとめ

三年の実践を重ねた進路学習は、今年度「学校設定教科」となり、その基礎ができたと思います。どの生徒も、自分が希望する進路先を、自分で選択し決めて卒業し、卒業後には豊かな生活を送ってくれることを願います。その力となるのが、社会生活能力と自己選択・自己決定力となると考えます。生徒たちが興味をもち、意欲的に学習できる環境や学習内容を工夫し、家庭・関係機関と連携を取りながら、実践を進めていきたいと思えます。

* 学校設定教科

学習指導要領で定められている教科以外に、教育上の必要から、学校独自で設定できる教科

図1 進路学習グループ編成（発達段階別）

1年	1グループ	2グループ	3グループ
2年	1グループ	2グループ	3グループ
3年	1グループ	2グループ	3グループ
支援の必要性			
進路先のイメージ	一般就労	福祉的就労	生活介護

資料1

進路学習 1年 1グループ 実施状況と反省

●各学年、各グループの実施状況の記入をお願いします。

「職・実」について

本校のキャリア教育全体計画■各学部段階におけるキャリア発達能力の目標の項目です。

それぞれの目標については、キャリア教育全体計画を参照してください。

- | | | |
|------------|------------------------------|---|
| 職業的発達課題の領域 | か→かかわる力・・・人・もの・情報とより良くかかわる力 | } |
| | え→えがく力・・・夢・目標・見通し・役割を思いえがく力 | |
| | も→もとめる力・・・より良い方向に向けて選ぶ、決定する力 | |
| 実際のな力の領域 | は→はたらく力・・・学習や作業を行う力、役割を果たす力 | } |
| | 生→生活する力・・・家庭生活や社会生活を実践する力 | |
| | た→たのしむ力・・・余暇を活用し、生活を楽しむ力 | |

*あてはまるものを○で囲む。複数可

回	月	日	単元名	学習内容	教材等	職	実
1	5	19	進路学習について知ろう 自分のこと ～自分のPRをしよう～	・自分の将来の夢について発表する、 ・進路決定に向けて高等部3年間で学習すること、 1年生の時に学習すること、目標等について話を聞く。 ・個々に自己PRカードに記入し、発表する。	学習内容、目標等の表示 自己PRカード	か え も	は 生 た
2	5	25	自分のこと ～自分のPRをしよう～	・個々に自己PRカードに記入し、発表する。	自己PRカード	か え も	は 生 た
3	5	26	自分のこと ～自分のからだ 自分の家族、家 家庭での仕事や手伝い	・プリントに沿って記入する。 友達の発表を聞く。	プリント(私たちの進路)	か え も	は 生 た

進路学習 1グループ 指導内容表

資料2

- 目標
- 1年 ・自分を知り、働くこと、卒業後の生活について関心をもつ。
・社会生活に必要な基礎となる能力や態度を知る。
 - 2年 ・自己理解を深め、将来の生活を意識して考える
・社会生活に必要な基礎となる能力や態度を理解する。
 - 3年 ・具体的な進路を考え、選択する。
・卒業後の生活をイメージし、課題解決する力を身につける。

2・3グループの内容表
については割愛します。

大項目	中項目	小項目	指導内容	
進路	自分のこと	自分のおいたち	生年月日、生まれた頃のこと、小・中学校の頃のこと	
		自分のPR	長所、短所、得意なこと、苦手なこと、好きなこと、夢、自己紹介、学校での諸活動(委員会、作業班)・役割・友達	
		自分のからだ	身長・体重、血液型、服薬、視力、平熱、靴・服のサイズ	
		自分の家族・家	家族、住所、電話番号、最寄り駅・バス停、家での仕事・手伝い	
		生活のスケジュール	一日のスケジュール、一週間のスケジュール、一年間のスケジュール	
		休日の過ごし方	土・日・休日の過ごし方、夏休み・冬休み・春休みの過ごし方	
	働くこと	いろいろな仕事	家族の仕事、学校や家の周りの仕事、いろいろな仕事、仕事の仕方	
		働く人の一日	仕事による一日のスケジュール	
		生産と流通	物が作られて、私たちのところに届くまで	
		職場見学	見学先の会社名・仕事内容・卒業生、見学のポイント、質問、まとめ、礼状、感想文	
	働くために	健康管理	生活習慣、食べ物と栄養、体力作り、肥満について、服薬	
		清潔	清潔な身なり、汚れた身なりと病気	
		身だしなみ	身だしなみ点検、季節や場面に合わせた服装	
		人との付き合い	あいさつと返事、言葉遣いと態度、相手から見た自分、助けを求める、状況の説明をする	
		マナー	食事の時、電車・バス利用の時、人に会うとき、電話を使うとき	
		金銭の管理	計画的な買い物、小遣い帳、貯金、いろいろなカード	
		移動、交通機関	電車・バスの利用	
		電話の使い方	操作の仕方、場面に応じた話し方、携帯電話の使い方	
	進路を考える	就業体験実習	実習先の名前や所在地・実習期間、出勤の準備・持ち物、休憩時間の過ごし方、挨拶、態度、目標、反省、うまくできたこと、次に気を付けたいこと、礼状書き	
		就職活動	履歴書の書き方、礼状の書き方、面接の受け方、通勤の仕方、ハローワークの利用、働く場、進路について相談できるところ、情報収集、資格が必要な職業、進路決定までの流れ	
	社会人になる	社会人の生活	働く意味、学生と社会人の生活の違い、家庭生活、卒業後の生活、進路先での生活、社会のルール、自分の役割	
		健康管理	健康診断、病気やけがのとき、生活習慣病とストレス、お酒とたばこ、働き続けられる体力づく	
		経済生活	給料と生活費、給料と貯金、お金の貸し借り、お金にかかわる危機と回避	
		人との付き合い	友達との付き合い、職場の人との付き合い、冠婚葬祭、男女交際、困った時の相談	
		生活の場	家族との生活、通勤寮・グループホームでの生活、一人暮らし、結婚、休日の生活	
		福祉制度	相談する人、相談機関、福祉サービス	
		きまりや制度	権利と責任、選挙権、税金、年金、療育手帳、給料、休暇、保険制度	
	国語・数学	進路学習の授業全体を通して取り扱う		
	日常生活 家庭生活	調理	献立	バランスのとれた食事、必要な食材を準備、分量、予算内の買い物、賞味期限
			調理の仕方	手順に従った調理、レシピの使用、食材を洗う、材料の切り方、調理器具の使い方、火加減、ガス・レンジ・オーブン・ホットプレートを使った調理
配膳準備、後片付け			メニューに合わせた食器選び、盛りつけ、配膳、食器洗い、食器ふき、台ふき、洗濯、食器の片	
洗濯		アイロン	簡単な衣類のアイロンかけをする	
		靴	上履きを洗う	
		洗濯	洗濯機の使い方、干す、たたむ、しまう、衣服の表示、クリーニング、手洗い	
裁縫		手縫い	糸通し、玉結び、玉どめ、なみ縫い	
		修繕	ボタン付け、裾上げ	
清掃		清掃	ほうき・ちりとりでの使い方、モップのかけ方、雑巾での拭き方、掃除機のかげ方、草取り、トイレ・洗面所の洗い方	
		整理・整頓	片付け、分類、ゴミの弁別	
性教育	命	命のはじまり、命のも	命の素がが合わさると赤ちゃんがうまれる、大切な命	
		男性の体と心 女性の体と心	男女の体の違い、男性の内性器、女性の内性器、プライベートゾーン、マスターベーション、性交について	
	高校生の体と心	2次成長と心の変化	心の変化、みんな違っていい、悩みは相談しよう	
	男女交際	男女のつきあい方	恋愛、結婚、人生設計、性被害(セクハラ、DV)	
薬物	薬物乱用・依存、健康	たばこ、酒、薬やサプリメント、乱用と依存について、違法な薬物		
余暇	豊かな生活	娯楽的な活動	テレビ、ラジオ、ゲーム、新聞、雑誌、鑑賞、お茶・コーヒー・紅茶の入れ方	
		創作活動	漫画、イラスト、ダンス、小説、写真、書道、日記、工作	
		造形活動	焼き物、絵画、デザイン、メディアアート	
		外出	計画、会費、公共の交通機関の利用、iPad、携帯電話、手紙、はがき、軽い運動、スポーツ活動、地域活動、ボランティア活動	

参考図書：くらしに役立つ国語・数学・家庭、私たちの進路

家庭・関係機関との連携の状況

	内容	対象	具体的な連携
家庭	個別の指導計画	全員	・進路学習の目標・手立てについて、共通理解する。
	三者面談		・学習の様子、達成状況について説明する。
	学年通信		・写真やコメントにて学習の様子を伝える。
	連絡帳	個別	・学習した内容や状況について、個別に伝え共有する。
	長期休業中の課題等	個別	・学習した内容について、課題や手伝い、余暇活動として取り入れてもらうことにより定着を図る。
関係機関	行政担当者との交流会 (居住地域の福祉課)	全員	・自分の出身地域の支援機関と担当者を知る。 ・進路決定に向けた必要な手続きや相談の仕方を学ぶ。
	就業体験実習 (実習先)	全員	・将来の進路に向け、生徒個々のもつ課題及び可能性を明らかにする。 ・社会生活に必要な知識・技能を身につける。 ・働くことに対する意欲と体力を養う。 ・普段の作業学習の成果を試す場とし、進路選択の一助とする。
	就職ガイダンス (厚生労働省)	2・3年 1グループ	・卒業後の進路に向けて、職業観と就労意識を高める。 ・就職に向けての具体的ステップを学ぶ。
	ハローワーク利用学習会 (ハローワーク)	3年 1グループ	・一般就労を希望する生徒を対象に、面接時のマナーや公共職業安定所の利用方法など将来に向けた準備学習の機会を提供する。
	県南地区障がい者就職相談会	3年 1グループ	・相談会に参加することで、就労先との就労に関するきっかけを作る。 ・進路の方向性を判断する情報を得るとともに、意欲向上を図る。
	求職登録 (ハローワーク)	3年 1グループ	・求職登録と担当職業指導間との面接を行う。
	校外学習(事業所等見学)	1・2年	・各学年毎に、事業所や企業を見学し、進路選択の一助とする。
	先輩から学ぶ会 (卒業生、進路先)	3年 1・2年 1・2グループ	・先輩から仕事の様子、生活の様子などを聞くことにより、卒業後の生活についてのイメージをもつ。
	放課後等デイサービス	個別	・送迎時に情報交換を行い、情報を共有する。

チャレンジ

岩手県立前沢支援学校
高等部3学年
学年通信No. 21
平成27年9月24日 発行



前期・進路学習の様子



9月で前期が終わります。今回のチャレンジでは、各グループ毎に学習している進路学習の様子をお知らせします。自分の進路について考えたり、将来生活していくために必要な力を、実践をとおして身につけていく学習です。

1グループ



緊張しながらの面接練習



公共職業安定所利用学習会
パソコンで求人検索体験



性教育
赤ちゃん人形でだっこ体験

2グループ



性教育
プライベートゾーン



鏡で身だしなみチェック



クッキング体験
ピザトースト作り

3グループ



顔洗いの練習
きれいになったかな？

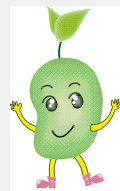


トイレ掃除
ほうきとちり
とりで床はき

便器磨き
ピカピカに
磨きましょう！



学部・家庭・地域・関係機関とつながった支援のあり方



キーワード
は「連携」

「個別の生活指導計画」の取り組みを中心に

一 はじめに

本校寄宿舍では「自分から進んで日常生活を送ることが出来る」「や」周りの出来事に関心をもち、意欲をもって活動できる」を目標とし、方針の一つに「家庭や学部及び関係機関との連携を図り、社会参加と自立に向けた支援に努める」を掲げ取り組んでいます。

二 研究にあたって

平成二十五年度から二十七年までの三年次研究では連携を題材に、その精度を高めてそれぞれの連携を深めること、「個々のニーズに応じた支援」「充実した支援の共有や移行」が期待できるのではないかと考え、「家庭・学部との連携」「地域・関係機関との連携」「個別の生活指導計画の運用」の三点について検討することにしました。

三 研究内容

- 1 家庭・学部との連携
 - ・三者面談への出席 (H25)
 - ・学級担任との指導計画書の交換 (H25)
- 2 地域・関係機関との連携
 - ・家庭への「個別の生活指導計画」の開示報告(月一回) (H27)
 - ・連携対象を「店・公共機関」に絞る (H26)
 - ・男子棟、女子棟で事例を挙げて取り組む (H26)
- 3 個別の生活指導計画の運用
 - ・様式の見直し (H26)
 - ・推進日程の見直し (H26)

四 成果と課題

- 1 家庭・学部との連携
 - ・三者面談への出席
 - ・指導計画書の交換

通年で行うことを共通理解とし、学級担任との連携を図りました。三者面談時には寄宿舍からの時間を設けてもらうことで、保護者だけでなく学級担任にも寄宿舍の様子や取り組んでいる内容を伝える良い機会となっています。今後も情報共有を継続していくことで、学部と寄宿舍の連携をさらに深めていきたいと考えています。
- 2 「個別の生活指導計画」の開示
 - ・伝え方が統一されていないことが個別の生活指導計画の開示を、寄宿舍指15

全員が同時期に同じ方法で取り組むことで、保護者への伝わり方が確かなものになりました。

・「個別の生活指導計画」の中間報告

これまで計四回連絡帳を活用して取り組み、保護者からの反応も増えてきました。様式の中に保護者が簡単に記入できるようなチェック欄を設けたことで保護者からの反応も得やすくなり、さらに家庭での取り組みを記される場合もあり、「どうすれば家庭でもできるか」を頭に入れて支援内容の改善を考えることにつながりました。今回、月一回の中間報告としましたが、様式の一部を改善し、今後も継続していきたいと考えています。(資料1)

2 地域・関係機関との連携

- ・連携対象の絞り込み
- ・各棟での事例検討

地域の連携対象を本校周辺のコンビニなどの店舗や公共機関に絞り、各棟が

らそれらとの関わりのある事例をあげ、手立てを工夫しながら実践しました。その結果、直接的な連携はできませんでしたが、寄宿舎での経験を家庭に伝えることは、卒業後の居住地域でのより良い支援につながり、家庭との連携に重点を置くことの必要性を改めて確認できました。(資料2)

3 個別の生活指導計画の運用

- ・様式の見直し
- ・推進日程の見直し

これまで前後期で作成し、年に二度保護者に関示していましたが、二十七年より通年のもので変更しました。中間報告を行うことで、途中経過の確認や支援の見直しができ、日程に余裕をもつことができました。また、より寄宿舎生のニーズに応じた目標を立てられるように様式の変更を行い活用しています。(資料3・4)

五 まとめ

三年間を通してテーマを「学部・保護者・地域・関係機関とつながった支援のあり方」として取り組んできました。寄宿舎生にとって、最も身近で大切な存在となるのは家庭であると考えます。そのためにも、支援の手立てに、家庭でも使えるような工夫を加え伝えていくことで、個々のニーズに応じた充実した支援の共有や移行につながっていくことができると考えます。

前研究の成果に「個別の生活指導計画は書いて終わりではなく、活用されて初めて意味がある」とありました。今回開示や中間報告を定期的に行うことで、支援内容を見直し、保護者との情報共有を図ったことは、活用するという部分に一歩踏み込むことができたのではないかと考えます。

最後に、研究にご協力いただきました保護者の皆様、学部の先生方に心より感謝申し上げます。

舎での取り組み状況

◎目標としていること

肌着やＴシャツをズボンに入れることができる。

◎そのための手立て

- ・舎室に鏡を用意する。
- ・着替えの際に鏡を見るようにする。
- ・着替えの順番を掲示する。
- ・慣れるまでシャツが出ている時は、指導員が上着を持って介助する。

◎できるようになったこと

鏡を見ることで、裾が出ていないかどうか気にすることが増えました。

ですが、鏡を見忘れたり、こちらが出し忘れてしまうと鏡を意識することが難しく、その時にはその都度声を掛け、裾を入れられるように介助しています。

最近では、着替えの後に「服装はOK?」と聞くと、鏡の前に立ち、自分でチェックすることも増えてきました。

◎次に工夫したいこと

着替えの際に鏡が目の前であれば、意識して着替えることができるようですので、着替えをする前に自分で鏡の前に立てるよう支援を考えたいと思います。

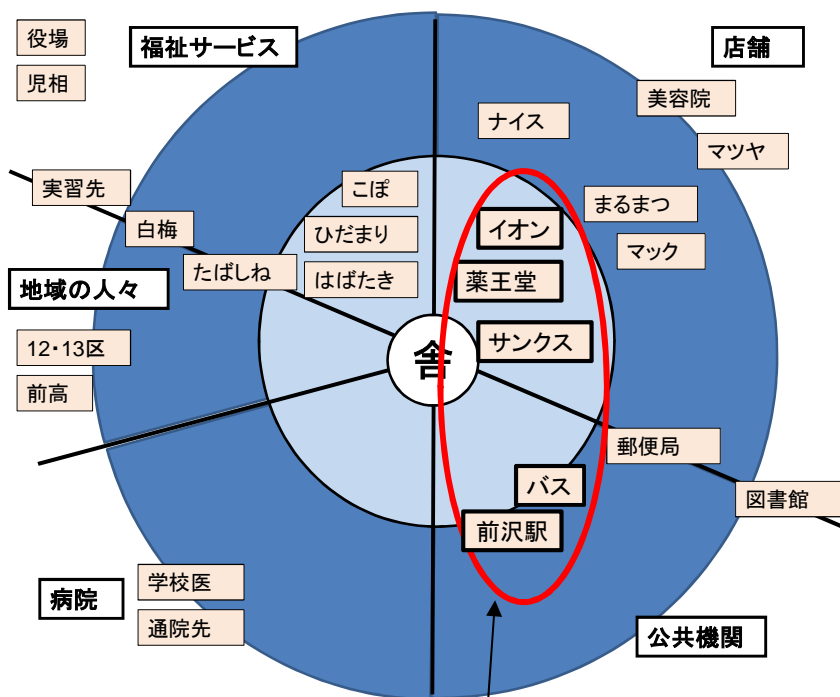
- ・着替えの前に鏡を見るよう声をかける。
- ・着る服の所に「鏡を見るマーク」を掲示する。

おうちの方から

- うちでもやっています
- うちでもやってみたい
- うちでは難しいかも
- 引き続きよろしく

家では、つい手をかけてしまいがちなので、鏡を見てできるよう声をかけてみたいと思います。

「鏡を見るマーク」はどんなものなのか、教えてください。家でもやってみたいと思います。



店舗、福祉サービス事業所、地域の人々、公共機関、病院が挙げられた中、26年度は「店舗、公共機関」の中から、寄宿舎により近いイメージのあるもの(図の縦長円の中)を中心にして考えていくことにしました。

平成27年度 寄宿舎個別の生活指導計画

資料 3

舎室名 おおぞら 氏名 明峰 大空 (高2) 舎室担当 村上、川崎

本人の希望	・ 寄宿舎生活を楽しくすごしたい。
保護者の希望	【現在】・ 身だしなみができるようになってほしい。 【将来】・ 一人で買い物ができるようになってほしい。

年間指導目標	・ 一人でできることを増やし、楽しく生活することができる。
--------	-------------------------------

領域	内 容		評価
日常生活	具体的目標	・ 肌着やYシャツをズボンに入れることができる。	
	手立て	・ 舎室に鏡を用意する。 ・ 着替えの際に鏡を見るようにする。 ・ 着替えの順番を掲示する。 ・ 慣れるまで、シャツが出ている時は、指導員が上着を持って介助する。	
	経過	・	
社会生活	具体的目標	・ 一人で商品を選んで支払いができる。	
	手立て	・ 支援カードを用意する。 その日買うものを本人が記入する欄を設ける。 買い物の手順を表記する。 ・ カードを持って買い物に行く。 ・ 家庭にも同じものを用意する。	
	経過	・	
所見			

<評価の観点>

- ◎・・・達成しました。
- ・・・ほぼ達成しましたが、より確実にするために継続して取り組みます。
- △・・・まだ達成できていません。手立てを検討します。

認	校 長	舎室担当	保護者
印			

推進計画

月	日	内容	備考
4 月	6 日 (月) 8 日 (水) ~ 10 日 (金) 20 日 (月) ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舎生情報交換 ・ 舎生実態把握 ・ 保護者の願い配付 (〆切 13 日) ・ 学担、保護者との方向性の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三者面談 (4/20~5/1)
5 月	8 日 (金) 11 日 (月) ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入舎生情報交換 ・ 指導計画作成 (通年) 	
6 月	1 日 (月) ~ 12 日 (金) 19 日 (金) 22 日 (月) ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棟内共通理解 ・ 指導計画〆切 (決裁) ※1 ・ 保護者開示 ・ 学舎で様式の交換 ・ 実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期就業体験(6/1~/12)
7 月		↓	
8 月			
9 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画 (通年) 見直し期間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三者面談
10 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 棟内共通理解 ・ 追加等あれば保護者へ口頭説明 ・ 学舎で共通理解 ・ 実践 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">(高) (小・中)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期就業体験 ・ (中)校内実習
11 月		↓	
12 月			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">(高) (小・中)</div>
1 月		↓	
2 月	12 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画まとめ〆切 (決裁) ※2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三者面談にてまとめ開示
3 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続入舎生の実態把握 	

※行事など日程に応じて変更あり

あとがき

副校長 千田 滋久

夏休み明け後に、保護者の方から会議等で「インクルーシブ教育」「キャリア教育」など、よく分からない片仮名語が多く困っているという話を耳にしました。

現代社会は、日常生活のあらゆる場面で片仮名語が氾濫しています。教育現場も同様です。私たちと、保護者や地域、関係機関の方々との会話の中にも多くの片仮名語が使われています。そのほとんどが専門用語のため、ときには伝えたいことが十分に伝わらなかったり、混乱をまねいたりしていることもあると思います。

これまでの校内研究のまとめ、集録にも、専門用語や片仮名語が使われております。平成 25 年度からの 3 年間の研究集録は、連携先に配付することを前提に作成しております。これは本校では、17 号目にして初めての試みです。

研究は、キーワードを「つなぐ」とし、キャリア教育についての理解推進や授業づくりについて、家庭や地域、関係機関と連携して取り組むことで、よりよい支援につながると考えて進めてきました。そのために、日頃から分かりやすさに重点を置いて取り組んできました。具体的には、次の三つの点を心がけました。

- 1 専門用語はできるだけ使用しない
(使用する場合は注釈を設ける)
- 2 言葉で表現が難しいものは写真や図を活用する
- 3 文章は簡潔で短くする

これは、研究集録にも生かされております。

学校で取り組んだことをわかりやすく伝えることで、連携先の方々と情報を共有することができ、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活の実現に向けて成長しています。

今後も、キーワード「つなぐ」を大切に、学校と家庭や地域、関係機関との連携がより一層深まるように努力いたします。

これまで、研究活動にご指導・ご協力いただきました関係者の皆様方に感謝を申し上げますとともに、なお一層のご支援をお願いします。